

小学生の家庭学習：算数の成績

日本とアメリカの小学5年生のお子さんとそのお母さんを対象にした調査によって、算数学習の取り組み方には、文化によって異なる部分とがあることがわかってきました。日本の親子75組と、アメリカの親子179組を対象にした調査の結果の一部をお伝えします。

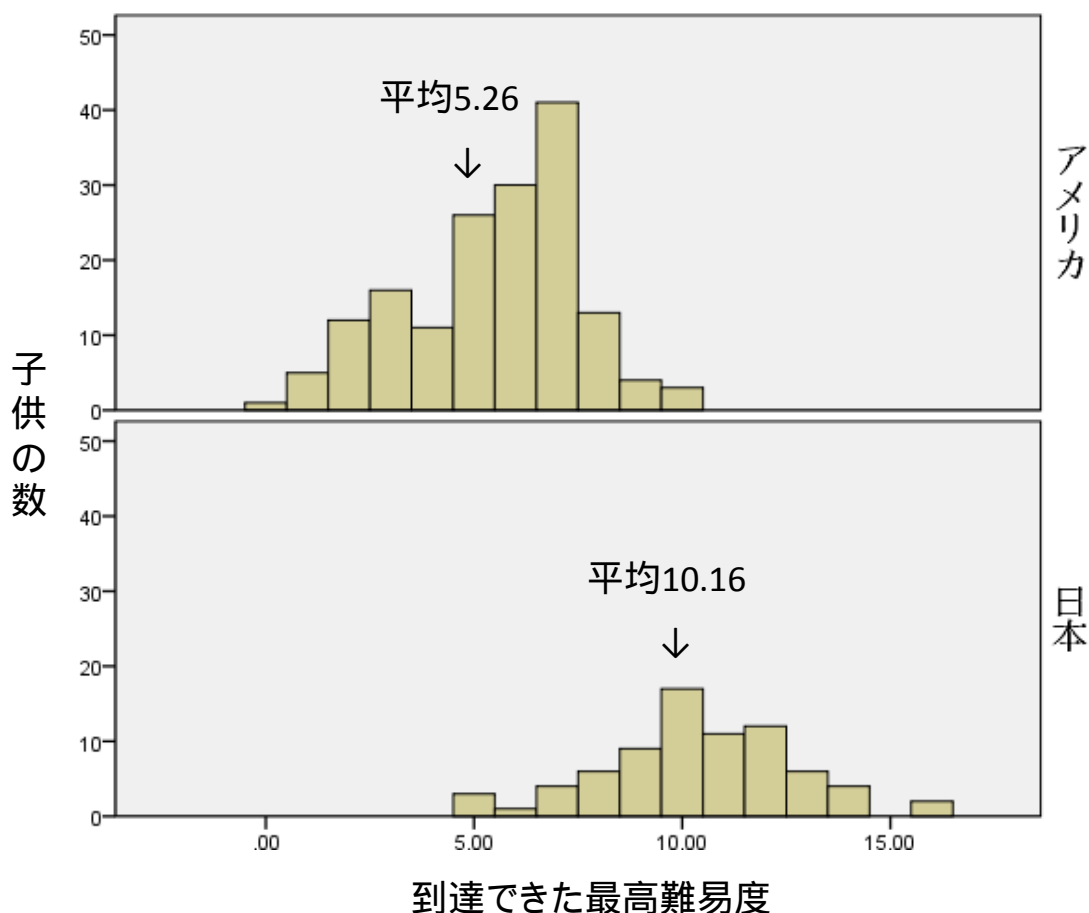
日本の方がアメリカの子供よりも算数の課題が得意

調査では、お子さんにコンピュータ上で算数の課題にとりくんでもらいました。最初は簡単な問題(難易度0)から始まり、正解するにつれて、段々と難易度が高くなっていきました。例えば、以下のような問題が出されました。

$$9 + 7 + 2 = 16 + \underline{\quad} \quad (\text{難易度5})$$

$$6 \times 3 \times 4 = 9 \times \underline{\quad} \quad (\text{難易度10})$$

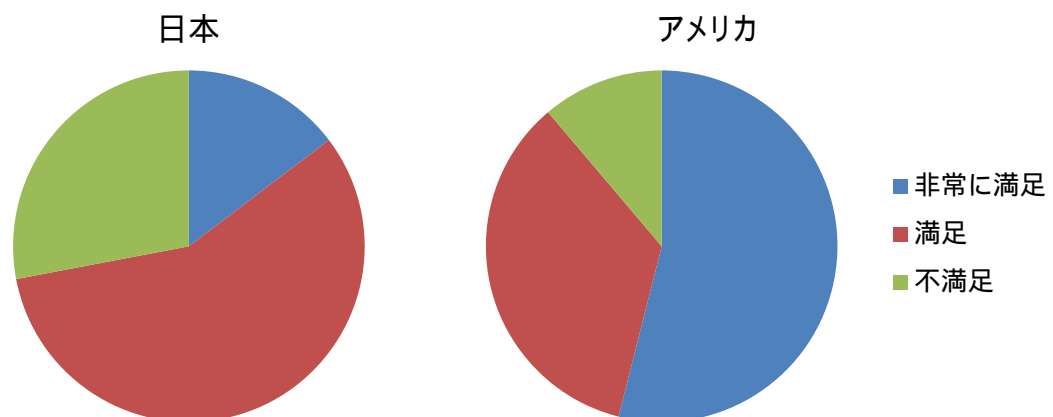
平均をみると、日本の子供は難易度10の問題まで解けましたが、アメリカの子供は難易度5の問題までしかとけませんでした。また、最も到達点が高い子供は、日本では難易度16の問題まで解けましたが、アメリカでは、難易度10の問題までしか解けませんでした。つまり、アメリカのトップの子供と、日本の平均的な子供の算数の成績は同じくらいということです。



子供の算数の成績に、アメリカの母親半数以上は「非常に満足」しているのに対して、日本の母親の3割は「不満足」

日本の方がアメリカの子供よりも算数の成績はよかったものの、日本では15%の母親しか子供の算数の成績に非常に満足していなかったのに対して、アメリカの母親の半数以上が非常に満足していました。逆に、子供の算数の成績に満足していない母親が日本には3割ほどいるのに対して、アメリカには1割程度しかいませんでした。日本の母親の方が、子供の算数の成績に対して高い期待値をもっているのかもしれませんが。

お子さんの算数の成績にどの程度満足していますか？



文化間で異なる算数への取り組み：子供に合わせるアメリカ、期待値の高い日本

今回の調査を通じて、算数に対する親子の取り組み方は文化間で異なることがわかってきました。アメリカでは子供の算数の成績が低くても、母親は子供の算数の成績に満足して、子供に自信をつけさせようとしている様子が伺えます。それに対して日本では、子供の算数の成績は全体的に高い一方で、子供の算数の成績に対する親の期待値が高いようです。

小学生の家庭学習共同研究チーム

調査主体：

京都大学教育学部教授 楠見孝

<http://www.educ.kyoto-u.ac.jp/cogpsy/kusumi/>

ウィスコンシン大学心理学部准教授 宮本百合

<http://psych.wisc.edu/faculty/bio/kmMiyamoto.html>